

prendre un canon!

Les Cailloux du Paradis / Claude Courtois

クロード・クルトワは、コトー・ド・ヴァロアで牛・豚・馬・鶏・羊などを育てながら、ピオディナミで素晴らしいワインを作っています。91年に自然火災の大火事で全てを失い、ほぼ無一文でロワール地方ソローニュにやってきた彼は、シレックス土壌のレ・カイユ (Les Cailloux) とレ・パラディ (Les Paradis) という2つの畑で同じ方法でワイン作りを始め、ファースト・ヴィンテージの1995年からパリのレストランや専門家の間で高い評価を得てきました。「環境の調和が完全にとれていれば、収穫の時期に雨が降っても果実が腐敗する心配もなく、素晴らしいワインを作ることができる。ピオディナミといっても、よその畑の草や堆肥を持ってきたら環境が壊れる。だから私は、醸造家であるよりも農夫であり続けたい」と語っています。極端なまでの低収量の彼らのワインはとてもオリジナルで究極な、深いエキスを閉じ込めたユニークなものです。



doinel standard

SHOE STOOL



福岡を拠点とするファッションブランド「FUJITO」の10周年アニバーサリーアイテムとして作られた、靴用に特化したスツール、SHOE STOOL。玄関先で履掛けたり、足をのせて紐を結んだり、ブラシをかけた。時にはステップにしたり、荷物置きにしたり。靴ブラシなどを置ける小物入れも備え、幅250mmとコンパクトながら使い勝手の良いアイテムです。素材は重量感のある無垢のスチールに、工具類によく用いられる三価クロメートメッキ仕上げで、日常で使い込みたい道具感があります。デザインを手掛けたのは、同じく福岡を拠点とするデザイナー、二俣 公一さん。空間、建築、家具、プロダクトと国内外の様々な分野で活躍されています。FUJITOのデザイナー藤戸 剛さんと二俣さんは、元々オフィスシェアをしていたという間柄。2人の関係から生み出された、オブジェとしての存在感と実用を兼ね備えた新しいプロダクトです。

new arrival

Antonello AW Collection



イタリア、サルデーニャ島にルーツを持つ、アントネッロ・テッドが手がけるイギリスのバッグレーベル、アントネッロ。使用される生地は、数百年に渡ってサルデーニャの女性の家内工業として継承されてきた伝統の手織り布。今も島の女性たちが、再生コットンや島で牧羊しているオーガニックウールを丹念に織りあげています。その伝統工芸を活かし、今の時代にあったスタイルのプロダクトとして表現しているアントネッロ。有名メゾンでファッションデザイナーとしての実力を培ってきた彼ならではの、クオリティとファッション性、オリジナリティーを兼ね備えたバッグに仕上がっています。自然や人々への配慮を当然とし、伝統を享受しながらも新しい表現方法を模索し続けているプロダクトです。ますます秋は深まり、ウールの恋しい季節がやってきます。いまからでも早くはありません、少しずつ冬支度を楽しみましょう。



vêtements et accessoires

SCHA 2013AW

ドイツ、ケルンのデザイナー Ewa Kulasek (エヴァ・クラセク)。エヴァはデュッセルドルフのアカデミー・オブ・ファイン・アーツで絵画と彫刻を学び、2004年にSCHAを発表しました。すべて天然素材を用い、彼女の小さな工房で一つずつ手作りされています。今季はおなじみのウールやラビットヘアのハット、ペレーの他、新しいアイテムとしてウールのヘアバンドなど、色展開を含め新たに13種類ご覧いただけます。

look at

BRAUN "Wall Clock"

1980年代、ドイツのBRAUN社にてDietrich Lubsがデザインしたウォールクロックです。四半世紀以上前のデザインでありながら、今の時代のインテリアに溶け込む機能美と存在感を持っています。デザインアイコンでもある時計ですが、ブランドなどにとらわれず、よりフラットな視点でデザインの良さを感じて選ぶ、軽やかで新しいヴィンテージとの付き合い方が広がっていきそうです。



doinel journal

October, 2013

Take Free



MAKOTO
KAGOSHIMA
EXHIBITION
2013

鹿兒島睦の圖案展

10月12日(土)から10月27日(日)の期間、doinelにて今年で6年目となった鹿兒島睦さんの個展を開催いたします。鹿兒島さんの展示会は近年は初日ではほぼご覧いただける作品やアイテムがなくなっている状況でしたので、今年の展示会では、鹿兒島さんの魅力を別の角度からゆっくりとみていただけるよう、器などの陶芸作品に限らない鹿兒島さんの世界を「圖案」を通してご紹介します。

※今年の展示会では、器や陶板などのハンドメイド作品の販売は、会期後半の10/26(土)と10/27(日)のみとなります。



My favorite ○△×

My favorite "shop"、僕の好きなショップ

最近、オーナーショップということばをよく使う。自身で勝手に使っている造語で、どのような意味かという、店主個人の意思が反映されているお店のこと。最近ではじっとしても簡単に「良い」ものに会える時代。そんな簡単に会えるようになってくると、ただ「良い」だけでは面白くなくなってしまうけれど、「なぜ、これが好きなんだろう?」「これを作った人ってどういう人?」などと興味を持つことによってより深く面白くなっていくんじゃないかなと思う。オーナーショップの店主は、デザイナーや作家さんと同様にお店というものに対し作品のように向

き合い、お店やそこに携わるものやお客さんにも独自の考えをもって接している。売れるから選ぶのではなく、自身が売りたいものだから選ぶというように。(時には「売りたい」よりも「これが好き!」が先行していることもあるのだけど。笑。)その視点は多くの人に受け入れられる価値観とは違い、かなり偏った、ある意味偏愛に近い視点。でもそれはきっと携わる人たちの好奇心を刺激してくれる。そんなオーナーショップに出会えたり、行けたりすると、良いモノと出会えた以上に満足してしまう。そういったお店や人に出会いたくていつも旅を続けている。

📍 築地雅人 (doinel/biotope オーナー) www.doinel.net/ www.biotope.biz

雑貨店オーナー、トラベラー。年に8-10回ほど海外へと買付けを行い、主にヨーロッパから家具や雑貨などの輸入卸、ディストリビューション業務も営む。

このコーナーはオーナーショップの店主、作家、ライター、デザイナーなど自身が興味を持っているものを書いていただくコーナーです。

今回は trouville、泉哲雄さんです。

doinel

[location]

3-2-9 Kita-Aoyama, Minato-ku, Tokyo 107-0061

It is 3 minutes' walk from Gaienmae Station of Ginza Line to doinel.

Open 12:00 - 20:00

Closed Wednesday

[contact]

tel +81-(0)3-3470-5007

info@doinel.net

a_doinel

doinel

